

I. 「科学技術連携施策群」について

1 目的

「科学技術連携施策群」（以下「連携群」という。）は、各府省の縦割りの施策に横串を通す観点から、総合科学技術会議（以下「会議」という。）が国家的・社会的に重要であって関係府省の連携の下に推進すべきテーマ／群を定め、テーマ／群毎の関連施策（以下「府省施策」という。）の不必要な重複を排除し連携強化を図るために、平成17年度より推進しているものである。また、これにより、相乗効果、融合効果が発揮され、全体としてより優れた成果を生み出すことが期待される。

2 連携群の対象テーマ／群

連携群については、会議において最終的には14のテーマ／群を設定した（表1「科学技術連携施策群の対象テーマ一覧」参照）。

3 推進体制

- 連携群毎に、連携効果を高めるため、会議の下に連携推進の場を設けるとともにコーディネーターを配置して一体的に推進
- 重複排除を徹底した上で、連携群の中で補完的に実施すべき研究開発課題については、会議のイニシャティブの下、必要に応じ科学技術振興調整費（以下「振興調整費」という。）を活用して実施

との基本的考え方の中で、会議の有識者議員及び連携群毎に配置するコーディネーター（会議の専門委員）がイニシャティブを発揮し、事務局を務める内閣府を中心として関係府省の協力を得つつ推進している。

また、会議では振興調整費によるプログラム「連携群の効果的・効率的な推進」（以下「連携群プログラム」という。）を活用し、（独）科学技術振興機構の支援も得て、担当する有識者議員の識見を基に、コーディネーターが中心となり、府省の連携強化や府省施策の不必要な重複排除、連携群の進行管理等を行う会合、連携群の成果の社会への還元にも資するシンポジウムの開催等の取組を行っている。

4 補完的に実施すべき研究開発課題（補完的課題）の実施

本連携群の展開に当たっては、各連携群毎に、共通の研究基盤の整備や全体を俯瞰して抽出された欠落課題の実施を目的として、振興調整費を活用した「補完的に実施すべき研究開発課題」（以下「補完的課題」という。）を実施した。

なお、各連携群毎に実施する補完的課題については、会議において公募する課題を設定し、文部科学省（振興調整費事務局）における公募・選考手続きを経て、会議の有識者議員が実施機関等を了承し、決定している（別紙1参照）。また、終了した補完的課題については、文部科学省において事後評価が行われて会議に当該評価結果が報告され、会議有識者議員が確認して事後評価が終了することとなる。

II. 各連携群の成果及び今後の課題について

「連携群」については、立ち上げ当初の平成17年度には8テーマ／群で開始した。

これら連携群のフォローアップについては、平成18年11月にそれまでの成果及び今後の課題と進め方について中間的なフォローアップ（「連携群の成果及び今後の課題と進め方（中間報告）」基本政策推進専門調査会）を行っている。

また、平成18年度には、会議において連携群プログラムについての中間的な評価を行い、当該プログラムの今後の進め方について会議で決定し、平成19年度より新たに6テーマ／群を追加したところであり、最終的には14テーマ／群となっている。

今般、平成17年度から開始された8テーマ／群のうち、3テーマ／群が平成19年度で補完的課題が全て終了することから、下記のとおり、各テーマ／群毎に、その成果及び今後の課題についてフォローアップを行った。

今後は、補完的課題が全て終了した群から、毎年度、順次フォローアップを行う予定である。

また、平成20年度は、科学技術基本計画（平成18～22年度）の中間年度に当たり同基本計画全体の中間的なフォローアップを行うこととしていることから、平成19年度から開始し、平成20年度中には補完的課題が全て終了しない6群についても中間的なフォローアップを行う予定である。

III. 振興調整費プログラムによる取組が終了した連携群

振興調整費プログラム予算を補完的に一部活用して実施している連携群については、個々の連携群毎に実施している補完的課題が全て終了したとしても連携の取組自体が終了するものではないが、調整費プログラムを活用した連携群は終了することから、連携群毎のフォローアップ等の中で適宜今後の進め方等についてとりまとめ、この進め方等に基づき、調整費プログラムによる取組が終了した後も担当分野別PTが中心となって引き続き関係府省と連携して取組を進めるものとする。

表 1

科学技術連携施策群の対象テーマ一覧

(百万円)

連携施策群のテーマ 【コーディネータ】	連携群の目標	主要関係府省	課題 →採択補完的課題名	H17	H18	H19	H20 (予定)	H21
生命科学の基礎・基盤(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【五條堀 孝】	世界最高水準のライフサイエンスデータベースの構築を中心とした、ライフサイエンス研究における国際的優位性の確保を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関する調査研究 →生命科学データベース統合に関する調査研究	52	117	116		
新興・再興感染症 【倉田 毅】	新興・再興感染症から国民の安心・安全を守る研究体制の確立を図る。	内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省	■ウイルス伝搬に関する野鳥の飛来ルートの調査とそれらの野鳥における病原体調査及びデータベース構築 →野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析 ■高度安全実験(BSL-4)施設を必要とする新興感染症対策に関する調査研究 →BSL-4施設を必要とする新興感染症対策	52	156	116		
臨床研究・臨床への橋渡し研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【松澤 佑次】	がん、生活習慣病、免疫・アレルギー疾患、精神・神経疾患等の疾患に対する国民への画期的治療薬・医療機器・医療技術の迅速な提供を目指す。	文部科学省、厚生労働省、経済産業省	■若手医師の臨床研究者としての育成プログラム開発 →遺伝子・細胞治療に携わる臨床研究者育成			79	86	
食料・生物生産研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【小川 産】	環境と調和の取れた安全な食料の生産・供給、ならびに生物機能活用による物質生産のための基盤技術の構築を目指す。	内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■持続的植物生産のための植物・微生物相互作用の解析研究 →植物・微生物間共生におけるゲノム相互作用			79	83	
ユビキタスネットワーク 【齋藤 忠夫】	ユビキタスネットワーク社会実現の上で中核的な技術基盤の確立を図る。	総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省	■医療分野における電子タグ活用のための実証実験 →医療分野における電子タグ活用実証実験 ■ユビキタスネットワークの斬新な利活用研究・実証 →電子タグを利用した測位と安全・安心の確保	51	117	116		
次世代ロボット 【佐藤 知正】	次世代ロボットのさまざまな応用分野に共通のプラットフォーム技術の確立を図る。	総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省	■環境の情報構造化プラットフォームの基本モデルの研究開発 →ロボットタウンの実証的研究 ■蓄積と再利用可能なロボット用ソフトウェア基盤の確立 →分散コンポーネント型ロボットシミュレータ ■室内外を移動する人にサービスを提供するための環境情報構造化プロジェクト →施設内外の人の計測と環境情報構造化の研究 ■作業空間における物体操作のための環境情報構造化プロジェクト →環境と作業構造のユニバーサルデザイン	25	65	64		
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【西尾章治郎】	独自の情報サービスを提供するためにあらゆる情報(コンテンツ)を簡便、的確、かつ安心して収集、解析、管理する次世代の知的な情報利活用のための基盤技術を開発する。	総務省、文部科学省、経済産業省	■次世代情報環境におけるコンテンツ処理及び知識処理技術開発 →センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化			83	94	
ナノバイオテクノロジー 【梶谷 文彦】	ナノとバイオの融合領域研究により健康寿命延伸等安心安全な社会を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省	■分子イメージングによるナノドラッグ・デリバリー・システムの支援 →超臨界ハイブリッドイメージングと治療法 ■ナノバイオセンサ →独自のホール検出システムと磁性ナノビーズを用いた超高度バイオセンサの開発 ■分子イメージングによるナノドラッグ・デリバリー・システムの支援 →1遺伝子可視化法による遺伝子ベクター創製 ■ナノバイオセンサ →生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発 ■ナノバイオセンサ →精密構造識別型の電気・光応答バイオセンサ	26	65	64		
ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【中西 準子】	「ナノテクノロジーの研究開発」及び「社会受容のための研究開発」を集中かつ戦略的に推進することにより、イノベーションの創出を加速する推進基盤の構築を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■ナノテクノロジーの研究開発推進の共通基盤となるデータベース指標の構築に向けた調査研究 →社会受容に向けたナノ材料開発支援知識基盤			49	90	
水素利用/燃料電池 【本田 國昭】	水素エネルギー社会実現のため水素利用、燃料電池技術の確立を目指す。	総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省	■地域等における水素利用システムに関する概念検討 →地域水素エネルギー利用システムの研究 ■需要家用水素計量システムに関する研究開発 →需要家用水素ガス計量システムの研究開発	25	52	51		
バイオマス利活用 【鈴木 基之】	バイオマス利用、燃料転換等の技術開発により循環型社会形成を目指す。	総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 →バイオマス利活用システムの設計・評価手法 ■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 →地域完結型地熱燃料システムの構築と運営	52	117	116		
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【安井 至】	化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価の実現、資源を有効活用しつつ化学物質トータルリスクを最小化、国際基準・規制の枠組みづくりに貢献する研究開発を進める。	厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究 →事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤			70	92	
テロ対策のための研究開発ー現場探知システムの実現ー 【森地 茂】	「安全が誇りとなる国ー世界一安全な国・日本を実現」の実現に向けて、テロ犯罪を未然に防ぐための有害危険物の現場探知・識別技術を確立する。	内閣官房、警察庁、総務省、財務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、防衛省	■放射性物質の探知技術に関する研究 →手荷物中隠匿核物質探知システムの研究開発			87	94	
地域科学技術クラスター 【清水 勇】	地域における革新技術・新産業創出を通じた地域経済の活性化を図る。	内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■地域の視点に立った効果的な地域科学技術クラスター形成のための調査研究 →地域イノベーションの構造分析と施策効果	52	117	116		

【科学技術振興調整費ー科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進: H17年度契約額: 4億円 H18年度契約額: 15億円 H19年度契約額: 20億円 H20年度契約予定額: 11億円】

Ⅲ. 各連携群の成果及び今後の課題

- 1 生命科学の基礎・基盤
- 2 水素利用／燃料電池
- 3 地域科学技術クラスター

1 生命科学の基礎・基盤

- ・ 施策一覧
- ・ 俯瞰図
- ・ 本文
- ・ 補完的課題